

光市医師会報

昭和56年9月発行

No. 108



納涼懇親会

(7月28日 於松原屋)

光市医師会

医師会月間行事

◎定例理事会

8月11日 (火) 7・30 PM

光市医師会館

○報告事項

1. 中小企業退職金共済制度への加入促進について (お願い)
中小企業退職金共済事業団体よりの文書について
2. 県医師会の行事予定について
3. 第2回郡市救急医療担当理事協議会開催について (8月13日)
昭和56年度情報システム端末機増設計画
4. 中川清下関医師会長御母堂死去につき弔電
5. 特定疾患 (難病) 治療研究委託事業にかかる昭和56年度新規対象疾患について
新規対象疾患 ハンチントン舞蹈病
6. 先天性代謝異常等検査に伴う採血業務の委託契約について
新生児 1人 1回 2800円
7. 公正取引委員会事務局よりの通知について
医師会活動に関する事務局よりの通知
イ 医師会活動に関する独占禁止法の指針
ロ 都道府県医師会及び地区医師会の実態に関するアンケート調査結果
8. 組合員の健康診断実施について

○協議事項

1. 昭和56年度老人健診について
2. 8月度例会及び学術講演会開催について
3. 事務職員の採用について
採用方法は縁故採用として 伊藤理事担当とす

◎学術講演会

8月25日 (火) 7・00 PM

浅江 松原屋

演題 脳血管障害の診断と治療
(特に脳梗塞を中心として)

講師 川崎医科大学神経内科
教授 寺尾 章 先生

◎定例月例会

8月25日 (火) 9・00 PM

松原屋

○協議事項

- 昭和56年度老人健康診査について
- | | |
|---------|---------------|
| 一般検査 一人 | 1750円 |
| ねたきり老人 | 4523円 (医師のみ) |
| | 6425円 (看護婦同伴) |
- 以上了承され決定

○報告事項

1. 連絡事項 (文書配布による)
 - (1) 医師会活動に関する独占禁止法上の指針
 - (2) 都道府県医師会及び地区医師会の実態に関するアンケート調査結果
 - (3) 特定疾患 (難病) 治療研究委託事業にかかる昭和56年度新規対象疾患について
2. 医師会長会議報告
 1. 救急医療情報システム端末機の増

設計画

昭和56年、57年各年度50基つつ

2. へき地巡回健診の実施計画
 3. 勤務医との協調強化について
 4. 地域医療計画の方策について
 5. 郡市医師会よりの意見
3. 9月22日県医師会役員の光市医師会訪問について
 4. 国民健康調査について
 5. 所得補償保険加入について

三谷武太郎氏退職

戦時中から三谷薬品社員として、諸先生方と深いお付き合いがあり、その後光洋薬品株式会社社員として、続いて医師会事務職員として40年以上も私共光市医師会員の為に変な御盡力をいただいた三谷武太郎氏は、今年初より健康をそこなわれ、昭和56年7月1日付で退職されました。真面目な仕事ぶり、在職中の功績に感謝します。

集配については御迷惑かけておりますが、後任人事については、なるべく早くいい後任を探すべく目下交渉中です。

図書紹介

「世界の医療費問題」

著者 石本忠義

1980年11月発行 頸草書房

定価 1900円

本書は、1960年以降先進諸国の国民医療費対GNP比は1.5倍～2倍になったという事実への各国の対応策を紹介したものである。

医療費の増加要因として、大きく需要側要因と供給側要因に分けて詳しく分類してある。

需要側要因としては

- ① 人工学的要因
人工増加、年齢構成老化
- ② 医学的要因
疾病構造の変化
- ③ 経済的要因
所得上昇 生活職場環境の変化
余暇時間増大
- ④ 社会的価値観

一般教育水準上昇 健康教育推進
薬に対する信頼度の上昇 病気と受療に対する態度の変化

供給側の要因

- ① 医療面
医学医療の進歩 医療内容の高度化
入院医療重視 医療工学機器開発
- ② アヴェイラビリテイ
医師数医療施設数増加
- ③ 費用要因
医療施設建設運営費増加 一般物価賃金水準上昇
- ④ 制度的側面
不完全な医療システム、医療費支拂方式

これらの要素による医療費増加 圧力 顕在化の程度は、各国の医療費制度により異なる。

著者は先進諸国の制度を次のように分類している。すなわち、A型、出来高拂制医療保険+自由開業医制度(日、米、独、佛)

B型、人頭請負式保険サービス+ 公的医療機関型（英、伊、スウェーデン） B型では供給制限を行い得るので、医療費増大は相対的に少ない。しかし供給が需要に追いつかず、待ち時間が長くなる等のサービス低下現象がおきる。一方A型では、第三者機関が支拂保証を行うため、需要者側のコスト意識を失わせしめるのみならず、供給側にも最大限可能な高度の治療を実施しようとする誘因が働く。

医療費の高騰対策として、各国の対応方法について沢山の資料が紹介されているが、著者の論調は、A型の将来には悲観的である。医療に関しては完全な自由市場はあり得ず、A型の国でも市場と公共の手の双方を利用して運営が行われている。医療費高騰防止のため、政府の干渉をより増すべきか、それとも市場メカニズムを活用すべきかは意見の分かれる点である。

最近アメリカ北西部の病院並びに医療事情を視察する機会があったが、アメリカの医療費高騰防止のために打たれた行政的処置のきびしさには驚かされた。

日本の医療をとりまく経済事情も刻々と変化しているが、アメリカのように変っていく可能性も可成り高いと考えられるところから、医療の将来を見るのに大変に参考になる本だと思う。

あとがき

表紙 遂に種が切れて写された先生方には大変御迷惑と思いますが、納涼懇親会に撮した写真を出さして貰いました。おことわりなしに表紙したことをお許し願います。

原稿、写真なんでも結構です。会報に御協力お願い申し上げます。



発行所	光市医師会 TEL 0833 72-2234
発行者	大野宗二
編集者	会報編集委員会
印刷所	光市御崎町 中村印刷株式会社